

◇「騎虎の勢」

本部長 竹内 政司〔多摩支部 竹内運輸工業(株)〕

明けまして、おめでとうございます。

こうして新しい年を迎えられましたこと、とても嬉しく思っています。昨年一年間の皆さんの協力と貢献に、心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。皆で良い年にしていきたいと思しますので、更なるお力添えをお願い致します。

さて、今年はとら年。正確には庚寅(こういん=かのえとら)だそうで、庚にはものごとが改まる更新の意味があり、寅はつしむ、助けるの意を表すそうです。そして前年の継続の中に、庚と寅とがあいまって、従来の事象を改め新しい筋道を付けていくことが必要となる年だそうで、新制度や新しいうねりが動き現れる年となるそうです。

昨年夏の衆議院選挙を境に、日本は色々な意味で大きく変わり始めました。それも国民自らの手によって変化の渦を作り出したところに大きな意味があるのだと思いますが、安保闘争時代を生きてきた世代にとっては、政権交代は非合法的手段でしか成しえないものだと思っておりましたが、現実として起こったことに驚きを感じました。まさに無血革命です。

この政権交代は民主党が国民のための国作りを旗印に、国民目線という言葉を使い選挙を戦い、成し遂げられたものです。そして55年体制により作られた自民党ならびに官僚組織により運営されていた国の形を改めるものとなりました。

我々は起こった事の現実をしっかりと受け止め、これからは今まで以上に平常心をもって冷静に判断し、決断し、行動しなければならぬと思います。

世界経済を見据え、さらに悪化する日本経済において、我々貨物運送事業者だけではなく、企業を活性化し、経済全体を上向かせることを政治に多く期待するのは難しいと思います。現内閣18人の閣僚のうち7人が連合組織内議員でもあり、連合は内閣に4人の副大臣ポストを持ち、さらに国会では衆議院議長、内閣では官房長官ならびに事業仕分けを担当する行刷相、党では幹事長代理など、あらゆる要職に占める労働組合系議員の割合が高いのも事実です。また、連合傘下の産業別労組の集票力は183万票あるとも言われています。一面を見ると、まさにプロレタリアートが階級闘争に勝利したと言っても過言ではないと思うくらいです。経済全体の活性化には企業と労働者が力を合わせることも必要なことではありますが、これからはどんな時代になるか?、どんな世の中になるかは、まったく予測不能です。政権運営当事者さえも――ではないかと思うくらいです。

しかし時代や政権が変わろうとも国を思い、人の命の尊さを忘れることなく、国民の生活を支えているのは我々貨物運送事業者であるという自負と気概は持ち続けなければなりません。そして日々の仕事の中に、自分の命を犠牲にし、まして人の命を奪ってまでも成し遂げなければならないことなど何もありません。だからこそ安全な輸送を通じ、社会に安心を提供するという浩然の気を常にもち続けることが肝要です。今年は「騎虎の勢い、くだることを得ず」の故事にならぬ、退路を断ち、協会とさらに一体となった事故防止活動に全力を傾けて参りますので、皆さん方の更なるご協力を心からお願い申し上げます。

◇お知らせ《行事予定》

○1/19(火) 17:00 正副本部長会議・東ト総合会館 4F

○2/ 3(水) 新宿京王プラザビル4階「錦・扇」

16:00～ 三組織合同セミナー「錦」

17:55～ 三組織合同新年会「扇」

○2/ 8(月) 16:00 正副本部長会議・東ト総合会館 4F

○2/ 8(月) 17:30 第3回オープンセミナー・東ト総合会館 4F

○ロジ研フォーラム 3月4日(木) 東ト総合会館7階大会議室
是非ご予約をお願いします。

◇「第2回ロジ研オープンセミナー」

研修委員長 藤倉 泰徳〔足立支部 (株)藤倉運輸〕

12月2日水曜日に今年度第2回目のオープンセミナーを開催させていただきました!

今回の講師には業界ではおなじみの流通経済大学の野尻教授をお招きし、「規制緩和のその後・・・日米欧等の比較」というテーマでお話をいただきました。

アメリカ、EU諸国、韓国のトラック運送事業の規制にかかわる調査結果をもとに「参入規制」、「検査体制」、「適正取引」といった視点から見ると、日本と同様に世界各国でも激しい運賃競争をはじめとする共通の問題を抱えているという現実と、特に米欧では緩やかな参入規制と強化される社会規制の方向であることをわかりやすくご説明いただきました。

われわれも運賃下落に追い討ちをかけるかのような貨物量の減少=利益減少の中で、安全規制の強化へ対応するための投資増大と、本当に厳しい経営環境ではありますが、自社は当然ながら業界全体の存続のために何をすべきかを真剣に考え、議論し、解決していかなければいけないと改めて感じました。

ご参加いただいたロジ研、青年部、女性部の会員の皆さん、そして野尻先生本当にありがとうございました! 第3回へのご参加もお待ちしております!

◇「ひびき 178号 感想」

鈴木 護朗〔足立支部 (株)JK CARGO〕

ひびき No.178号に今橋衛元教育研修部長の原稿があり、大変懐かしく思った。

手許のひびきを見ると平成6年10月20日にNo1号が発行された。機関紙発行によせると橋場之廣本部長の原稿があり、浅井時郎会長の「ひびきの創刊を祝う」との寄せ書きもある。題字も浅井会長の筆であると記されている。「ひびき」発行を祝って金子さよ子本部婦人部本部長、「ひびき」、発刊によせると鎮目隆雄本部青年部本部長も寄稿している。「ひびき」の名称はアンケートの結果、中央支部の富吉章さん(東海運輸(株))に決定したとも書いてある。「トラックのひびき」「エンジンのひびき」「会員のひびき(声)」「壮年部活動のひびき(鼓動)」を意味するそうです。

「No1は機関紙の記念号となりましたが、次号からは支部便りや会員からの一言など多くの読者が参加できる伝言板や目安箱的な役割を果たしていきたいと思っております」。編集部一同の文章もある。丸15年を経て、途中には幾多の困難もあったと思うが、よく続いている。現役の皆様感謝する次第です。今橋元部長の顔を思い出しながら、暦年の内容を改めて読み返そうかと思う次第です。

◇「物流業は配車マンで決まる①」

(有)エイチ・アイ・プランニング 代表 岩崎 仁志

今年10月1日付で法改正が行われ、罰則が強化されました。法令遵守ができない場合、事業所停止処分と共に運行管理者の資格が取り消されることとなります。運行管理者、つまり配車マンは物流業における「要」とも言えるポスト。今回は、この配車マンに注目してみたいと思います。一口に物流業と言っても色々な仕事の役割がありますが、「配車マン」はその中でも特に重要な分野です。とり訳メンタルな部分で、神経をすり減らすことがとても多いもの。いわゆる“できた人”でなければ勤まりません。つまり適正としては①辛抱強く責任感がある、②聞き上手で暖かみがある、そして何より③コスト意識を持ち自社の信念を心得ている、一これらが必要と言えます。なかなか大変でしょう?だから「要」なのです。また運良く適任者に巡り合ったとしてもその後、更に精進していただくことも忘れてはなりません。つまりその「資質を」を高めて行くことも仕事の一つになるのです。